

第2講 メディア・情報

読解演習

解答

問一 速度礼賛者

問二 A エ B ア

問三 文学や思想の古典的資料

問四 例すべて情報として処理され、区別はない。(十九字)

問五 (1) ウ (2) 時間の成熟

問六 (1) タイムラグ・スピーディ (2) ウ

問七 情報が入り過ぎない存在

問八 イ・エ

解説

問一 「速度礼賛者」とは、「速いことをありがたく思い、ほめたたえる人」という意味である。「礼賛」は「れいさん」ではなく「らいさん」と読むことに注意しよう。

問二 A その段落のここまでの部分すべてを指して「総じて」と述べ、その後で簡潔な表現に言い換えているから、「換言」の接続語を選ぶ。

B 「情報と知識という形で明確に区別されてきた」に対して、「この区別は忘却のあなたに追いやられてしまった」と、くいちがう内容が続いているから、「逆接」の接続語を選ぶ。

問三 「そうではないもの」とは「速度が情報の価値に大きく関わらないもの」ということ。——線②の次の段落の後半に、その具体例が示されている。

問四 ——線③の次の「すべては〈情報〉として処理され、この区別は忘却のあなたに追いやられてしまったようだ」の部分、簡潔にまとめ直して、二十字以内で解答する。

問五 (1) 「インプット」は入力、「アウトプット」は出力という意味である。つまり、情報を仕込んでから、それを利用した成果が生じるのに時間がかかるということ。

(2) 「時熟」「時間性の成熟」「時間の成熟」などの表現の中から、五字のものを選ぶ。

問六

(1) 「それ」は、直前の部分を指している。タイムラグは「二つの現象の間起こる」時間のずれ」という意味だが、この文章中では「時間の遅れ」に近い意味で使われている。

(2) ——線⑤の後の文に「無駄な時間を省く」という心性に汚染され、時熟を味わえないからだ」と述べられているから、その内容を言い換えたものを選ぶ。

問七 「刹那的存在」とは、「その瞬間だけ生まれ消えていく存在」という意味であるから、情報社会においては、「膨大な情報の一つを瞬間的に受け取っては、すぐに忘れる存在」といったあり方を表すことになる。

問八 ア 「健康を損なわないよう」が不適切である。正しくは「刹那的な存在にならないう」 「自分を見失わないよう」 などである。

イ 「自分を単なる瞬間的な反応マシンのようにしてしまうこと」は、文章中の「私」を徹底的にやせ細った刹那的存在にになってしまうこと」と同義であるから正解。

ウ 「情報反応マシンや消費マシンとなる」

〈その結果〉「便利さと速さで社会全体を豊かにしていく」のではなく、「社会全体が、便利さと速さに適進^{まいしん}している」

〈その結果〉「情報反応マシンや消費マシンに変形されてしまう」という因果関係である。

エ 最後の段落全体を簡潔に言い換えた文であるから正解。